

NO6

高射砲陣地

所在地は伊勢市中村町（近鉄五十鈴川駅徒歩12分）



五十鈴中学校から、歩いて数分の畑に、コンクリートの箱状のものが正三角形に配置されています。

60年前、三角形の中心には高射砲が置かれ、箱の中には高射砲弾が入れられていました。伊勢市内にはこのような高射砲陣地が何カ所かに存在していました。

なぜ伊勢市に、そのようなものがつくられていたのか。サイパン島を出発して日本をめざす米軍のB29は、関東方面を爆撃する場合、富士山を目標にして北上してきました。

そして名古屋や関西方面をめざす場合は、志摩半島を目標とし伊勢市上空を通過しました。そのB29を攻撃するために高射砲が置かれたということです。

しかし成層圏を飛行するB29まで届く高射砲は、日本には数基しかなく、これらの高射砲は、ほとんど使うことなく戦争は終わりました。

今、秋空のもと、ひとけのない畑にある戦争の遺物は、一見、平和にみえる日本の空をどんな思いで見あげているのでしょうか。

20050915 掲載